このような視点から、本シンポジウムを通して、 この事故に対する科学者の役割と責任について議論を 深めたい。

▶ 参加申込方法

お申し込みは個人でお願いいたします。 本シンポジウムは**事前登録制**です。

※先着順で受付いたしますので、定員を超えた場合は 参加をご遠慮いただくことがあります。

【ホームページからのお申し込み】 http://crds.jst.go.jp/sympo/kagakusya

ACCESS



日本学術会議講堂

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 TEL: 03-3403-3793 (代表)

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5出口より 徒歩2分 都営大江戸線「六本木」駅 7出口より 徒歩10分 東京メトロ日比谷線「六本木」駅 4a出口より 徒歩10分

▶ 参加申込みに関するお問い合せ先

シンポジウム事務局((株)オーエムシー内)

TEL: 03-5362-0128

受付時間 10:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

FAX: 03-5362-0125 E-mail: crds@omc.co.jp

シンポジウム

東京電力福島原子力発電所事故への 科学者の役割と責任について

開催日:2011年11月26日(土)

時 間:10:00~17:00

場所:日本学術会議講堂









後援(予定):日本原子力学会、日本機械学会、日本化学会、土木学会、 日本医学放射線学会、日本原子力研究開発機構

▶ プログラム (日英同時通訳)

1 10:00~10:20 [開催挨拶]

吉川弘之(科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター (CRDS) センター長)

大西 隆 (日本学術会議 会長、東京大学 教授)

2 10:20~11:50 [基調講演と報告]

・事故の全容に関する報告 10:20~10:40 広瀬研吉

(内閣府 参与、東海大学 特任教授、CRDS 上席フェロー)

• 基調講演 **1** ···················· 10:40~11:10

「原子力と社会との関わり〜米国を例に」

Kevin Crowley (米国科学アカデミー (NAS) 原子力・放射線研究委員会 シニアボードディレクター)

「日本学術会議の対応、科学者の貢献(仮)」

矢川元基(東洋大学 教授、原子力安全研究協会 理事長、日本学術会議 連携会員)

「東電福島原発事故後の放射線防護対策 ーリスクコミュニケーションの担い手は?―」

佐々木康人 (社団法人 日本アイソトープ協会 常務理事、 日本学術会議 連携会員)

昼食 11:50~13:00

3 13:00~14:30 [講演一各分野からの貢献]

・**原子力分野からの貢献** ………………… 13:00~13:15 田中 知 (東京大学 教授、日本原子力学会 会長)

・化学分野からの貢献 ………………………13:15~13:35岩澤康裕

(電気通信大学 教授、日本化学会 会長、日本学術会議 連携会員)

・放射線医学分野からの貢献 …………14:00~14:15 草間朋子 (大分県立看護科学大学 学長)

休憩 14:30~15:00



4 15:00~16:50 [パネルディスカッション]

<パネリスト>

Kevin Crowley (米国科学アカデミー (NAS) 原子力・放射線研究委員会シニアボードディレクター)

石田寛人 (金沢学院大学 名誉学長、(財)原子力安全技術 センター 会長)

草間朋子 (大分県立看護科学大学 学長)

城山英明(東京大学大学院法学政治学研究科 教授)

田中 知 (東京大学 教授、日本原子力学会 会長)

保坂直紀(読売新聞東京本社科学部 次長)

<モデレーター>

有本建男 (JST CRDS 副センター長、社会技術研究開発 センター センター長)

5 16:50~17:00 [今後に向けての総括]

[総括講演]

吉川弘之 (CRDS センター長)